

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0173800582), 法人名 (有限会社ライフケア), 事業所名 (グループホームひまわり ユニットⅡ), 所在地 (日高郡新ひだか町静内旭町1丁目30番29号), 自己評価作成日 (平成31年1月31日), 評価結果市町村受理日 (平成31年3月12日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者や家族の願いや気持ちに寄り添い、弊所が新たな家、もう一つの家族であるように感じながら穏やかな生活ができるよう努めている。また、できるだけ本人の力を生かすことで支援を受けながらも自分らしさを保ち、心身の維持・向上が長期的に図られるようチームとしての一貫した支援にも力を入れている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0173800582-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成31年2月18日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

Table V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します. Columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 with various service metrics and evaluation results.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	町内の他施設とは違う独自の理念を立て、会議や研修を通して職員全体で共通理解を図ることにより毎日の介護において実践できるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同じ町内会の地域住民だけでなく、町内外のボランティアが日常的に訪問され、互いに行き来することで交流が図られている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での会議や研修会、運営推進会議といった機会を通して弊所での実践から学んだことを発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者全体の報告にとどまらず、個別の実態や行事等での様子を密に報告することで、推進委員や御家族からも積極的に意見や協力を得ることができている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や各種会議、研修会を通して積極的に交流を図り、有事の際は協力して素早い対応ができるよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	弊所では身体拘束を行っていないが、職員会議や外部研修を通じて職員全体での理解が図られるよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様に職員会議や外部研修を通じて職員全体での理解が図られるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域での会議や研修会で管理者等の立場にある者が学習する機会はあるが、職員全体への還流には不十分な面があり今後の課題としたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の申込み後、契約前に再度来所して頂き、住環境や各種経費などの契約内容について納得して頂けるまで説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に御家族の面会が多く、来所された際には他利用者や事業所全体に関わることにについても気軽にお話し頂いている。また、各棟の玄関に意見箱を設置し、内外の方の意見を積極的に取り入れるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月末の職員会議での意見交流はもちろん、介護や職場環境について日常的に職員と意見交流するよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に職員の勤務状況や介護実践を把握するよう努め、より働きやすい職場であるよう環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年齢や経験など個々人の実態に応じて外部研修への参加を促している。また、職員会議での内部研修にも努め、職員全体の知識・技術の向上が図られるようにも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内外の同業者との交流を奨励し、研修に限らず勤務時間以外での積極的な交流が図られるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に利用者御本人や御家族との面談を複数回持ち、生活歴や希望をできるだけ詳細に把握できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前・入所開始時ともに御家族との密な連絡を行い、利用者の変化や要望を伝え、より良い生活となるよう協力しながら実践に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者御本人はもちろん御家族やケアマネジャー等との話し合いや連携を密にし、長期・短期的な見通しの下に適宜必要な介護がなされるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの家庭的な雰囲気を生かし、職員をはじめ他利用者も含めた集団生活での良さや楽しさを実感して頂けるよう工夫している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	前述のように御家族との交流や協力体制が日常的なものとして定着しており、どちらか一方に偏りすぎることなく介護することができている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃から御家族以外の面会があり、行事にも発表する側になったり利用者様と一緒にご覧になったりと様々な形で参加して下さっている。また、花見など季節の行事とも併せて馴染みの場所へ出かける機会を設けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の交流が自然と図られるようテレビの前や廊下にソファを設けたり、多目的室には多くの椅子を用意して多人数で歓談できるようにしている。また、日常の座席にも利用者様相互の性格や状態を考慮し、娯楽や協同作業を通して交流が図られるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほぼ全ての利用者様が弊所で御逝去されており、その後も御家族様はボランティアなどの形で面会や協力をしてくださっている。また、入院や転居された利用者様にも職員が自発的にお見舞いへ行く土壌ができており、一度入居された方とは最後までお付き合いをさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	前述のように基本的に入居前から利用者や御家族とお話をさせて頂いている。入居後も御本人の何気ないお話や行動を記録し、職員間で確認することにより個々に応じた生活が実現できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前述の通り、御本人や御家族、ケアマネジャーなどに入居前からお話を伺ったり資料を頂いたりして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の行動の様子は個別の日誌に記録しており、それ以外にも特変や留意点があれば職員間で申し送ったり会議で共通理解を図ったりしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議でのモニタリングやケアプランの評価は毎月行っている。御家族と特別な席を設けてのカンファレンスは行っていないが、日常的な面会の際に相談や確認ができています。また、医療面でも日常的な報告や相談の体制が整っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	前述のように毎日の様子を個別の日誌に記録したり、申し送りや職員会議で交流したりして共有できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業所に比べても個々の実態に応じたきめ細かなケアに定評があり、御家族や地域の方々からも御支持頂いている。今後もこの方針を継続して取り組んでいきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括支援センターや社会福祉協議会はもちろん、行事などの機会を利用して商業施設やボランティアとの連携が図られている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	弊所に隣接したクリニックとは開設時から提携しており、入所された利用者様のかかりつけ医として最後の瞬間まで御本人や御家族の希望に沿ったケアを提供することができている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	前項の通り日常的な連携が図られており、24時間体制で相談や確認ができる体制になっている。月2回の医師による往診の他に看護師による訪問看護も行われており、特変があれば毎日でも対応して頂くことができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	昨年からの連携体制が整備されており、先方の医師やケアマネジャーと情報交換できる体制が作られている。また、地域の医療・介護関係者による会議や研修も盛んなため、日常的な関係づくりにも町として努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に御本人や御家族へ説明し、相談させて頂いている。実際にそうした状況にならなければ判断が難しい御家族も多いため、時が来た際には医療などとの連携を図り、御本人や御家族の希望に沿った安らかな最期を迎えて頂けるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社後は必ず救急救命の研修に参加している。また、内部研修で終末期や行方不明時などを想定した対応について学ぶようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回、昼間と夜間のそれぞれを想定した避難訓練を実施している。近年の状況をふまえて火災だけでなく水害を想定した避難訓練も実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症があっても個々の性格や生活歴は全く違っており、現在の心身の状況もふまえながら自尊心を尊重できるよう対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉での意思表示が難しい方や言葉と真意が異なる方もいらっしゃるが、御家族との話し合いや資料の活用を基に日常的な関わりの中から御本人の思いや希望をくみ取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の状態や集団としての状態も加味しながら、できるだけ個々の希望に応じた生活スタイルとなるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御自分で好きな洋服を選ぶことのできる利用者が多く、季節や体調に合わせてアドバイスさせてもらいながら精神的にも健康的にも満足して頂けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事には御本人の好みを伺った御馳走を用意し、日常の食事やおやつでも個々の嗜好に合わせてながら形状や固さに工夫し、食べることを楽しみにして頂けるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	前項の通り個々の実態に合わせて形状や固さに工夫し、3回の食事と午前・午後のおやつ摂取状況を日誌に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立歩行できる方は毎食後に口腔ケアの誘導をしている。また、移動に補助が必要な方もできるだけ御本人の力で口腔ケアをして頂き、職員が補うようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的に布パンツを使用しており、夜間のみ紙パンツを使用している利用者もいるが全介助の利用者にも紙おむつは使用していない。記録を基に排泄パターンを分析し、できるだけ容量の小さなパットを使用しながら失禁のないよう誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療とも連携し、排便の状況を詳細に記録して滞りなく排便が促されるよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本となる時間帯はあるが、御本人の希望に合わせた時間に入浴の対応をしている。また、利用者の実態に合わせて足浴やドライシャンプーなどの手立てを工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に傾眠される利用者もいるが、日中の昼寝も含めて個々の生活習慣や実態に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療とはもちろん隣接した薬局の薬剤師と日常的に連携しており、適切な薬の管理と把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや拭き掃除、洗濯物たたみなどの家事活動を日常的に取り入れ、生活歴や残存能力に合わせた個々の活動を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	降雨・降雪時以外は草花を見ながら一周20分程のコースを毎日散歩している。それ以外にも外食や栗拾いなど御家族や地域の方々とも協力しながら季節に合わせた屋外へのお出かけを行うように努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族とも相談しながら御本人の実態に合わせて金銭の管理を行って頂いている。可能な方には外出時に御自分で支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に電話を頂く御家族や頻繁に手紙を頂く御家族があり、御本人との繋がりを保つことができるよう支援に努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造の良さを生かし、光量や照明の色にも工夫し、落ち着いて安心した生活が送れるよう配慮している。また、ボランティアの方とも協力し、季節や行事に合わせた飾りも行い、利用者が季節を感じたり楽しさを感じたりすることができるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	前述のようにソファの配置や多目的室などに工夫し、単独でも複数でもそれぞれが思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や御家族の写真など、御本人の希望に合わせて私物を持ち込んで頂き、できるだけ安心して入居して頂けるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホームの特性を生かして一般家庭に近い家具を使用しており、個々の身体状況や認知症状に合わせて介助用具や表示などの工夫をしている。		